

# 鎌ヶ谷市 市民活動推進センター だより



鎌ヶ谷国際文化交流会

(詳細は4頁に掲載)



## 目次

鎌ヶ谷国際文化交流会 (写真紹介)	p 1
シニア・ピア・なごみ (団体紹介)	p 2
西部小学校学校支援地域本部コーディネーター (人物紹介)	p 3
NPO!?なんのためだれのため (図書紹介)	p 3
助成金情報 (お知らせ)	p 4
資金提供もボランティア? (Q&A)	p 4



# シニア・ピア・なごみ

《代表者》田中 龍彦

《連絡先》

\* 鎌ヶ谷市ボランティアセンター

047-442-2940

\* シニア・ピア・なごみ 代表者 田中龍彦

047-412-2849



## 【活動の目的は？】

元気な中高年者がカウンセリングの基本を学び、寂しさ、悩み、不安を持つ同世代の高齢者の相談やお話相手をする相互扶助の活動を通して、住みよい地域社会を作るための援助活動を目的としています。

## 【活動テーマ】

1. 高齢者福祉施設を訪問し、相談やお話相手（傾聴ボランティア）をすること。
2. 市内の高齢者宅を訪問し、相談やお話相手（傾聴ボランティア）をすること。
3. 会員の研修と親睦を図る定例会を開催すること。

## 【活動内容】

1. 年間訪問活動状況（H22年4月～H23年3月）

施設名	訪問回数	訪問人数	訪問日
シルバーク ア鎌ヶ谷	38	153	水曜日(月4回)
慈祐苑	35	164	火曜日(月3回)
翔裕園	35	91	木曜日(月3回)
グランシア 鎌ヶ谷	45	208	水曜日(月4回)
幸豊苑	35	97	水曜日(月3回)
菜の花館	6	17	木曜日(月3回)
個人宅	268	274	月1～2回
計	462	1,004	

2. 会議等

総会（年1回）、定例会・研修会（月1回）、役員会（必要に応じ会長が招集）

3. 会員のスキルアップと親睦

定例会では外部講師・内部講師による講演会・勉強会でスキルアップ。「音楽療法と傾聴」の勉強会なども実施。

会員相互の親睦のため、バス旅行やウォーキング等を計画し実施している。

## 【活動に至った経緯は？】

身体機能低下や孤独感から来る寂しさ、悩み、不安を持っている方々に、元気な高齢者が同世代の仲間として、相談やお話相手をする相互扶助のボランティア活動をするのが、住みよい地域社会を創る一助になればという動機で、主旨に賛同するメンバー8名で発足しました。

## 【組織の概要】

メンバーは48名で、8割強が女性メンバーです。会長、副会長、会計、書記、会計監査を置き、総会、役員会、定例会・研修会を開催しています。訪問先施設6ヶ所、個人宅23軒です。

## 【実績・成果】

訪問活動回数462日、定例会12回、隔年で「傾聴ボランティア養成講座」を開催しています。活動内容はテレビ・新聞・雑誌などのメディアに取り上げられ、知名度が高まってきました。

## 【アピールポイントは？】

楽しく、明るく、元気に、そして、活動上無理をしないことをモットーに、個人に対する精神的な負担をできるだけ軽減し、自主と自立を大切にしています。

## 【問題点、課題は？】

会の運営目標を数値化し、課題がより具体的に把握できるようにしています。例えば、個人宅の訪問先を50軒として、各方面等に協力要請をしていますが、思ったように進捗していない点です。

## 【今後の方向性、展開】

1. 介護保険法上で「傾聴サービス」が制度化されたらNPO法人になること。
2. 災害時には他団体との連携を図ること。
3. 10年、20年後も存続する組織にすること。

地域で活動する人物紹介

鎌ヶ谷市立西部小学校

学校支援地域本部  
コーディネーター  
山形 静 氏



◆ 現在活動している内容 ◆

次年度のワクワクスクール（※）実施に向けて講師を探しています。パチパチ先生（3・4年生算数そろばん学習支援）の準備中です。ビオトープ保存事業を行い、夢本部だよりを発行しています。

◆ これから始める人へひと言 ◆

学校は様々なボランティアを求めています。まずは実施校でのボランティア事業に参加してみませんか。教えるのではなく、一緒に学び育つ気持ちが大切かと思ひます。

◆ 活動を始めた動機 ◆

小学校で PTA の役員をしていたことがご縁で、コーディネーターを引き受けました。

活動を始めた動機は、図書や花壇のボランティアやこどもまもり隊での活動、昨年地域の方と子どもたちで行った上総掘りのビオトープが完成したことです。

また、以前から実施していたワクワクスクールでの経験を通じて、子どもたちの体験学習の機会を作ることのお手伝いが出来ればと強く思うようになったことです。

◆ 今後の「夢」 ◆

- ① ワクワクスクール事業の拡充
- ② パチパチ先生の育成
- ③ 英語学習支援
- ④ 大学との連携

◆ 「夢」実現への課題 ◆

夢は人材発掘のほか、本事業に対する理解・すべての学校に支援本部が設置されることです。課題は運営資金の確保とボランティアの方の活動の場が広がることです。

◆ 活動経歴 ◆

平成 20 年

- 文部科学省「学校支援地域本部事業開始。鎌ヶ谷市では4校（初富小・中部小・四中・西部小）に委託
- 西部小学校内に地域ルーム（未来ルーム）設置
- 学校長からコーディネーターの依頼を受け活動準備に入る。同時にコーディネーターを募る
- 支援本部活動開始
- 学校支援地域本部の名称を夢本部とする
- 次年度事業計画作成・提出

平成 21 年

- 学校・地域に対しボランティアの募集を始める。夏休みの「ワクワクスクール講師募集
- 講座開設準備・ワクワクスクール
- ワクワクスクール実施 26 講座
- 算数そろばん学習支援（パチパチ先生）募集

平成 22 年

- 3・4年生パチパチ先生学習支援開始
- ビオトープ内の田んぼで古代米田植え
- ワクワクスクール 52 講座実施
- ビオトープ古代米収穫
- 古代米収穫祭・稲わらを使ったしめ縄作り

平成 23 年

- 文部科学省委託事業終了
- 国・県・市による教育支援補助事業となり継続
- 4年生向けパチパチ先生実施
- ワクワクスクール 47 講座実施
- ビオトープ改修工事実施
- 新ビオトープお披露目会
- 3年生パチパチ先生実施予定

図書の紹介

※ワクワクスクール：夏休み中に西部小職員・地域のボランティア・保護者等によって開かれる学びの講座

**NPO!?**  
なんのため  
だれのため  
「NPOとまちづくり」  
現場からの本音トーク

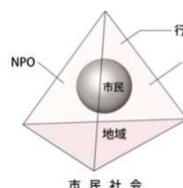
編著者 村岡兼幸+財団法人  
まちづくり市民財団  
発行者 関口健次  
発行所 (株)時事通信社出版局

戦後の日本の社会は「企業」と「行政」の二面ばかりに頼り過ぎました。「NPO」の面があまりに小さく、バランスの悪い三角錐でした。しかし1990年代、「企業」や「行政」の力が衰え、また阪神・淡路大震災におけるボランティア活動などをきっかけに、「市民の活動」が相対的に大きく感じられて注目されました。

そして社会を支える有力な主役のひとつとして期待を寄せられ、関連する法律が整備されました。多様な個人が非営利の市民活動を通じて社会でさまざまに活躍できる雰囲気が出てきたのです。

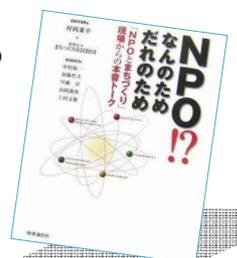
市民の活動はこの10年ほどでずいぶん大きくなってきて、三角錐は少しずつバランスよく形を整えてきつつあると思いますが、まだまだ十分ではないとも思っています。

日本という社会は、「市民が社会をつくっている」意識が希薄のようにも見えますが、社会を変え、社会をつくるのは三角錐の真ん中に位置する市民です。社会をよくするのも、悪くするのも市民の責任なのです。ですから、市民が何とかしようとして行動すれば社会をどんどんよくしていけるという意識を持つことが大切です。



そしてそのとき、市民一人ひとり輝いていると思うのです。NPOが成長し、力をつけることで、地域社会の三角錐のセクターバランスが取れるようになり、それぞれの関連性に「協働」と「競争」が生まれ、互いに成長し合う。そんな成熟した市民自治が息づくまちを自らの手で創造していきたい。

本書が、NPO法施行から10年経とうとしている現在、また混沌とした不安な社会状況にある日本にあって、「社会の変革とNPOの可能性」について今一度考えてみる、あるいは、自ら行動してみようと思うきっかけの一助になればと著者は期待しています。



## お知らせ

## 助成金情報

## ＜キリン・シルバー「力」応援事業公募助成のご案内＞

## ★対象活動

高齢者が、地域のために、その知識・技術・経験を活用するグループによるボランティア活動  
 [例]1.講座・研修などのイベント開催 2.地域の福祉・教育施設訪問 3.高齢者の居宅訪問・居場所作り 4.配食、送迎などの地域での支援活動 5.地域での環境整備・防犯活動

## ★対象となる団体

65歳以上のメンバーが中心となって活動する4人以上のグループ(メンバーの半数以上が65歳以上であり、なおかつ活動の中心となっている4人以上のメンバーが65歳以上であること)

## ★活動実施期間

平成24年7月～平成25年3月

## ★助成金額

1件(1団体)あたりの上限額30万円(総額500万円)。30万円以内の申請であっても、審査の結果申請金額の一部を減額させていただく場合があります。

## ★申し込みについて

受付期間 毎年3月10日～4月30日

## ★お問い合わせ

公益財団法人 キリン福祉財団  
 栃内(とちない)または千葉宛  
 TEL:03(5540)3522  
 FAX:03(5540)3525



## 資金提供もボランティア？

## Q. 資金提供もボランティア？

A ボランティア活動は、ある目標(課題)に共感しあえるさまざまな市民が、お互いの「持ち味」でお互いの「限界」を補いあって、連帯の力で一つの目標達成のために協働する活動だといえるかもしれません。

たとえば、地域の高齢者がそれぞれの特技を生かして社会参加できるような活動の場をつくろうとか、子供たちにもっと野外で遊ぶ楽しさを伝えて行こうとか外国人が気軽に日本語を学べ、日本人も相手の文化にふれる場をつくろう、といったことです。そういう意味で、「時間がなくて(あるいは体力がなくて)活動には直接参加できないけれども、せめて資金援助だけでも」とお金を出す人がいれば、その人は立派にボランティア活動に「参加した」といってもよいでしょう。ただ、資金援助だけのボランティアの場合、その資金を利用して実際に活動を担うボランティアや、援助を受ける人たちとの間にどれほどの共感をつくりだせるかが重要になります。

問題意識が共有され、「共感」が十分に保たれているかぎり、資金提供だけでもボランティアと呼べます。しかしボランティア活動はやはり、実際の経験のなかから学び、自分を成長させ、喜びを得る活動だと思います。

(「知っていますか?ボランティアと人権一問一答」より)

## ..☆..・写真の説明..☆..

鎌ヶ谷国際文化交流会(ICECK)は、毎年、ジャズコンサート異文化交流の祭典、会員持ち寄りバザー等で募金を集めフィリピンミンダナオ島のナブル村に学校を2棟建設寄贈しました。ナブル村は、橋のない川を17本も渡らないと辿り着けない辺境にあり、子供達は初等教育も受けられない状況でした。開校式には、会員6名で参加しましたが、子供達の歌に迎えられ、神父・住民代表・子供代表の感謝の言葉があり、厳粛なまでのすばらしい儀式でした。式でのナブルと鎌ヶ谷が融合した瞬間、子供達の素朴でシャイでキラキラした眼差しに胸が熱くなりました。式後、交流会も開催され、お手玉やけん玉、鎌ヶ谷小唄、盆踊りといったまでも続いてほしいひと時でした。またたくさんの感動をくれた子供達ともう一度歌って踊りたいです。

鎌ヶ谷国際文化交流会 太田尻 はる子

## 編集後記

市内の市民活動団体の協力を仰ぎながら進めてまいりました「市民公益活動情報誌」作りが完了し、市民活動推進センターで配布しております。今回は、社会福祉協議会の協力を得て、ボランティアセンターに登録している団体も同時掲載し、120団体となりました。

ご協力いただきました皆様におかれましては、誠にありがとうございました。

この情報誌が、これから市民活動を始めようと考えている方の一助となり、団体においては、他団体との情報交換、異分野の団体と連携した活動の輪が広がるきっかけになれば幸いです。

一層のご活躍を祈念いたします。

市民公益活動相談日 原則毎週月曜日  
 (市民公益活動相談員 須貝)

発行者・所在地 鎌ヶ谷市市民活動推進センター鎌ヶ谷市富岡 2-6-1 生涯学習推進センター(まなびいプラザ)1階

T E L / F A X 047-401-0891 / 047-401-0892

U R L / e - m a i l http://www.collabo-kamagaya.jp/ / sikatu@city.kamagaya.chiba.jp